

## 将来に向けての新しいスタート

湘北はこの度、全国469校ある短期大学の中で唯一の特色GP3回選定校となった。しかし、3回選定という栄誉に驕ることなく、これを次のチャレンジに向けた新しいスタートを切る号砲と考える。体験教育や地域貢献のさらなる拡大と質の向上はもとよりだが、それ以外にもあらゆる英知を傾けて、2年間の短大教育がもたらし得る最良の果実を実らせるべく努力を続けていく。——— かつて創立者・井深大氏が夢として描いた理想の短大教育を今の世に実現するために。

## これまで特色GPに選定された湘北の2つの取組

平成15年度

### 「短期大学における社会体験教育の多面的展開」 ～湘北インターンシップ(SI)～

独自の多彩なインターンシップを学外・学内双方から行う取組。学生に実社会体験を通して、早くから社会を理解する機会を与えている。学外での就労体験だけでなく、学内でも擬似会社方式による新しい社会体験教育を行っているのが特徴。就職内定率の向上やフリーター志向の減少はもちろん、勉学意欲・受講態度やマナーにも良い影響を及ぼしている。



学内ではプロジェクト全体を立ち上げることから実践し、主体性と協調性を養う。

平成16年度

### 「国際交流体験教育の多面的展開」 ～実践的コミュニケーション能力育成プログラム～

国際交流体験を通して実践的なコミュニケーション能力を育成する取組。海外研修・留学制度の充実を図るだけでなく、海外姉妹校の教員招聘や留学生の受け入れを積極的に行い、学内にいながら国際交流体験ができる機会も設けている。たとえ片言の英語でも心が通じあうことを実感することで、豊かな人間力が育つきっかけになっている。



3ヵ月留学の事前指導等のため来学する豪州姉妹校の教員とは、様々な場面で積極的に交流。

#### 平成15年度の応募結果

応募件数(大学・短期大学全体)・・・664件  
うち短期大学からの応募件数・・・151件  
選定件数・・・80件  
うち短期大学の選定件数・・・21件

#### 平成16年度の応募結果

応募件数(大学・短期大学全体)・・・534件  
うち短期大学からの応募件数・・・116件  
選定件数・・・58件  
うち短期大学の選定件数・・・14件

#### 平成18年度の応募結果

応募件数(大学・短期大学全体)・・・331件  
うち短期大学からの応募件数・・・64件  
選定件数・・・48件  
うち短期大学の選定件数・・・10件

### 特色ある大学教育支援プログラムとは？

#### 目的

文部科学省が全国の大学・短期大学の教育改善に関する取組の中から特色ある優れたものを選定し、その内容を他大学をはじめ広く社会に提供することによって、今後の高等教育の改善に貢献すること。

#### 選定対象

短大～大学院の教育を中心に、学科以上の単位で組織的に取り組まれ、過去から実績を挙げてきたもの。

#### 選定ポイント

特色性、組織性、実績、共通性、公共性(社会的使命)

学校法人ソニー学園  
**湘北短期大学**  
<http://www.shohoku.ac.jp/>  
〒243-8501 神奈川県厚木市温水428 TEL.046-247-3131



<http://www.shohoku.ac.jp/>

情報系・クリエイティブ系のスペシャリストを育成する  
情報メディア学科

現代の多彩なビジネスに役立つ実務能力を育成する  
総合ビジネス学科

豊かで快い生活を演出するプロデュース能力を養う  
生活プロデュース学科

子どもの成長を見守る保育のプロを育成する  
保育学科

# 湘北の高大連携 ネットワーク

平成18年度 文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に選定  
選定テーマ「高大連携による地域教育ネットワークの形成」

**短大で唯一!  
3度目の選定!**



「実技を通じて智識のみでなく、世の中を生きていく、人を率いていける人柄を身につける教育を」—— 本学の建学の理念は、ソニー創立者である故・井深大氏が寄せたこの言葉に集約される。この理念の下、豊かな人間性を育てる教育に重点を置き取り組んできた数々の試みは、これまで2度文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に選定されてきた。そしてこの度、高校と教育交流協定を締結して数多くの交流を行い、お互いが抱える問題の解決を図ろうとする取組が選定された。短大で唯一となった3回選定という快挙に、自信と誇りを深めながらも教育の充実を図り、今後も高等教育の活性化の一助となっていくことを目指していく。

学校法人ソニー学園  
**湘北短期大学**

# 文部科学省が、「特色ある優れた教育プログラム」として高く評価!! 高大接続を通して地域の教育活性化に寄与する 「湘北の高大連携ネットワーク」

本取組について、特色ある大学教育支援プログラム実施委員会から、次のような評価をいただきました。

この取組は、湘北短期大学の「外に開かれた短大として、地域社会との連携に意を用い、常に地域社会への貢献を念頭におく」という教育の特色を効果あるものとするために、リベラルアーツセンターを中心に全学的取組として、平成13年度から実施されている取組です。

この取組は、今日的な問題である高大接続や高大連携について、特定の分野だけの連携の取組ではなく、正規の授業開放・土曜日特別授業・出張授業・PC集中講座・映像コンテストなどと多岐にわたっていること、高校と連絡協議会を開催するなど双方向の高大連携であること、近隣の高校24校と連携していることなどから、地域教育のネットワークが形成され、地方における短期大学と高校の高大接続や高大連携のあり方について参考になり得る優れた事例であるといえます。

今後は、それぞれの取組を有機的に組み合わせたり、連携により入学してきた学生の学修効果を測定する評価方法を検討するなどして、さらなる努力と工夫を重ねることを期待します。

## 「湘北の高大連携ネットワーク」4つの特徴

### 連携基盤は日本最大規模

本学は教育の活性化を目指し、近隣の高校との連携を平成14年度にスタートした。当初から神奈川県立高校18校もの参加を得たが、連携校はその後も増え続け、平成18年8月1日時点では神奈川県立24校と東京都立1校へ広がっている。これは、単一の大学が実施している高大連携としては日本最大規模である。着実に発展してきた背景には、高校側にとってもこの連携が効果を発揮していることが窺える。



### 全学を挙げての取組体制

本学ではこの取組に対し、全学横断組織である「リベラルアーツセンター」が各種プログラムの企画と運営にあたっている。そして全授業を高校生に開放するという方針を打ち出したことで、全教職員が積極的に関わる態勢が出来上がった。また高校側との協議を行う場として、「学長・学校長会議」と「連絡協議会」が設けられている。それぞれの場で連携の充実と教育の質の向上について、検討を重ねている。

高校-大学間の話し合いの場	
学長・学校長会議	学長と高校長が基本方針を決定する場
連絡協議会	高校側の意見を取り入れ、年度計画を策定し実行する場



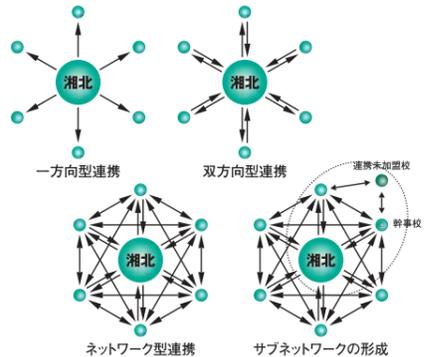
### 高校・大学双方の問題を解決

現在、大学では少子化やゆとり教育の影響を受け、入学時の基礎学力低下や入学試験の難易度の低下が問題となっている。また高校では、「総合的学習の時間」の有効活用、独自のカリキュラム作成、早期進学決定者の学習意欲の維持といった課題への対処が求められている。本取組は、こうした高校・大学双方が抱える課題を解決することを目標にスタートした。本学が最も重要と考えている「社会で生きていくための実力を身につけることを支援する教育」の幅広い実現を目指して、相互に教育補完することで問題の解決を図っている。



### ネットワーク型連携

本学は現在のような連携体制以前から、「一方向型連携」として高校への出張授業を行っていた。そして高校側の考え方や姿勢を理解し意見を受け入れることで連携は「双方向型連携」に進化し、現在の連携体制に至っている。連携校が多く参加したことにより、自然と高校間同士の交流が生まれ「ネットワーク型連携」が可能となった。さらに一部地域では、特定のテーマに関心ある数校がサブネットワークを形成している。場合によっては、このサブネットワークに連携未加盟校が参加することもある。



## 連携を通じて行われている様々な教育交流

### 湘北から高校への多彩なプログラム展開

本学から高校へ向けての取組は一般的な「出張授業」だけでなく、「正規授業開放」「土曜日特別授業」「授業公開週間」など多岐にわたる。中でも「正規授業開放」「土曜日特別授業」は単位認定の対象として、有意義に活用されている。また、高校教員に向けた「英語教授法特別講座」を過去2回実施。「キャリア入門講座」も新設され、各プログラムは高校授業の補完、高校生の進学意欲の啓発、大学教育の事前体験としてますます有効に機能していくことになる。

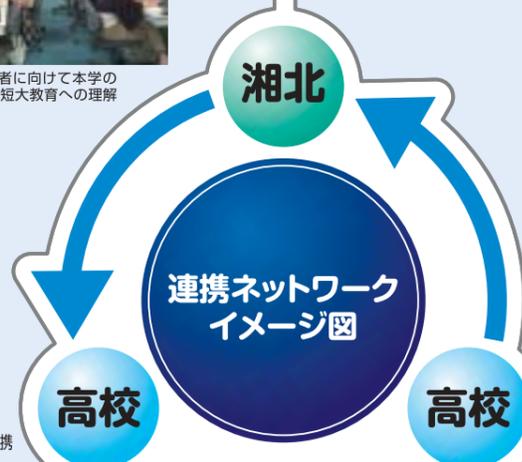


高校生が本学学生と全く同様に履修でき、本学に入学した際には単位として認定される。 高校生や保護者に向けて本学の授業を公開し、短大教育への理解を促している。



高校生向けの特別授業だが、本学学生も聴講可能なことから双方の学生の交流の場ともなっている。

- その他の取組
- 出張授業
  - 特別講演会
  - パソコン集中特別授業
  - 湘北祭参加
  - キャリア入門講座
  - その他本学諸部門との連携



### 高校からの提言を活かしたカリキュラム改革

本学は高校側からの提言を積極的に受け入れ、新しい構想に基づくリベラルアーツ科目を導入した。高校では学ぶ機会のなかった内容を、短大の教育に取り入れたのである。高校では、情報分野の教育環境が整いにくいこと、体験学習の時間が足りない、コミュニケーション能力を実践的に学ぶ機会が少ないなどの課題を抱えている。そうした実情を十分理解した上で、既存科目のさらなる改良と新設科目の開発に励んでいる。

#### 新設されたリベラルアーツ科目の概要

- リテラシー教育科目群**  
「日本語リテラシー」「メディアリテラシー」「ベーシック教科」など
- コミュニケーション能力の向上**
- 教養教育科目群**  
「暮らしとIT革命」「日本文化入門」など
- 社会への広範な興味の醸成**
- 体験教育科目群**  
「企画実践演習」「リベラルアーツ演習」など
- 主体的に考え行動する意欲の育成**

### 高校生同士で交流する貴重な機会の提供

本取組は、高校生同士の相互交流を深める場を提供することも重視している。「湘北ファッションコンテスト」「映像コンテスト」「英語スピーチコンテスト」など、高校生が主体的に参加できるコンテストを各学科や他のセンターとの協力のもとで開催。各コンテストは高校生にとって「他校の活動を知ることにより、自校の活動の活性化を促進する」機会として機能しており、各種授業公開と併せて高校同士の貴重な交流の場となっている。その他にも湘北祭や国際交流などの諸行事に多くの高校生が参加し、本学学生も交えて交流の輪を広げている。



4分間の自主制作ドキュメンタリー映像を発表するコンテスト。編集には本学の最新の情報機器を提供している。<リベラルアーツセンター>



国際化する社会に対応できる人材の育成を目的に、高校生部門と大学生部門が毎年開催されている。<グローバルコミュニケーションセンター>

テキスタイルとデザインを学ぶ本学学生の学習成果を発表するファッションショーの中に、新しく高校生のプログラムも用意された。<生活プロデュース学科>

### 連携による高校・大学それぞれの成果

- 本学側の成果**
  - ・湘北を理解した学生の入学
  - ・リベラルアーツ科目の刷新
  - ・高校教育を理解した本学教員の増加
- 高校側の成果**
  - ・単位制高校の授業補完への貢献
  - ・「総合的学習の時間」の有効活用
  - ・各高校の魅力や特色づくりへの寄与

### 今後の計画と将来展望

- 高大連携専用ウェブサイトの構築
- 体験要素を含めた入学事前学習の導入
- 情報関連の資格取得のための接続教育の開発
- 共同研究の成果を発表する研究誌の発刊
- 高大交流ステーションの新設